西東京市市民協働推進センター

平成 28 年度第 9 回運営委員会会議録（確定稿）

■開催日時：平成 29 年 1 月 17 日(火)午後 7 時 00 分～9 時 00 分
■開催場所：イングビル 3F　第 1,2 会議室
■出席委員：池田委員、坂口委員、佐藤(留)委員、鈴木委員、田中(紀)委員、田中(宏)委員、谷委員、富沢委員、中村委員、藤江委員＜以上 10 名、五十音順＞
■事務局　：内田センター長、佐藤副センター長、小平福祉活動推進課長、妻屋課長補佐、八阪主事

1.報　告　事　項

1.業務報告について

事務局より、12 月期の主催事業、ホームページアクセス数、新規登録団体、市民活動相談の状況について説明があった。

委員長：質問や意見はないようなので 1 月以降の実施事業について説明をお願いします。

2. 1 月以降の事業について

事務局より、1 月以降の実施事業について説明があった。

委　員：今年度の NPO 市民フェスティバルは、昨年のフェスティバルと比べてどうなのか。

事務局：昨年度より、展示参加が増えた。

委員長：西東京ボランティア・市民活動センターとの関わりはどうなったのか。

事務局：フェスティバルに活動紹介として参加するのではなく、最終日に西東京ボランティア・市民活動センターの相談コーナーを設置することになった。

委員長：西東京ボランティア・市民活動センターは共催ではないのか。

事務局：共催でフェスティバルに参加という意向があったが、今回は相談コーナーで参加し今後にむけて様子を見ることとなった。

委員長：職員が対応するのか。

事務局：当日は社協職員が対応することになっている。

委員長：NPO 交流会の参加申し込み状況はどうか。

事務局：NPO 交流会は、パリテ祭などのイベントが重なっているため、現時点の申込は 20 名ほどに留まっている。

委　員：1 月 21 日のフェイティバル終了時間は 3 時半なのか。

事務局：当初、3 時 30 分で終了を予定していたが、参加団体からの要望もあり、終了時間は 4 時となった。

2. 審　議　事　項

1.前回会議録について

委員長：今週末までに意見がなければ、確定稿とする。

委　員：フレイルは造語とあるが造語ではないのではないか。

委　員：東大の先生が造語と発言しているので問題ないと思う。

2. 来年度の事業計画・予算について

事務局より、平成29年度西東京市市民協働推進センター事業計画・予算（案）について説明があった。

委員長：今回、議論し次回の会議にかける予定となっている。質問はないか。

委　員：任意団体の基盤が弱いことから、センターの役割として任意団体への支援が重要であると強調して書かれていることが気になる。

委員長：一般的な意見として記載している。法人格を持った団体を主な対象に支援を仕掛けてきたが、法人格を持たない団体についても支援を考えていかなければならないことをうたっているのではないか。そのことが今回の事業に反映させられているかどうかの検証が必要だとは思う。

委　員：なにを持って支援してくれるのかがわからない。

委員長：ゆめこらぼに法人設立に関する相談などはあるか。

事務局：最近はそのような相談はない。近隣7市市民活動情報連絡会でも設立相談が少ないことが話題となった。

委員長：一般社団法人を取るところが増えている。センター設立当時は法人格を持ったところが対象だったため、今回はその他の団体も支援する旨を記載しているとの理解でよいのではないか。

事務局：現在、実態調査を集計分析している段階だが、団体が実際に抱えている課題等を踏まえて組み立てていきたいと考えている。

委員長：講座・セミナーなどの開催を任意団体も対象としたニーズで仕掛けていくということは必要であると考える。法人格の登録を持っている団体を増やすことも１つのテーマになると思う。１つひとつの事業のテーマまでは記載されていないので、次年度それぞれの企画を運営委員会で諮っていくことになる。ホームページのアクセス数をユニーク訪問者で増やす努力は必要である。また、登録団体間の交流を通し団体が連携して何かをやる時期になっているのかもしれない。西東京ボランティア・市民活動センターとの連携なども記載してもよいのではないか。事業上の連携を図ることにより、繋がりが出てくるのではないか。

委　員：西東京市の市民協働推進センターだが、任意団体等をスケールアウトして他市に広げていくことを支援するのもセンターの仕事と考えてよいのではないか。

事務局：現在抱えている課題としては、保谷地区の市民活動団体の掘り起こしが出来ていない状況なので、先ず市内を優先していくことを考えている。

委員長：地域戦略も考えていく必要があるのではないか。

委　員：市の重点政策として健康都市をかかげている。事業計画のミッションの１つとして市民の社会参加を促す領域は健康都市と繋がり、良い印象を与えるのではないか。

委員長：福祉系の団体を巻き込むにはよいと思う。

委　員：フレイルは福祉の話だけではなく、広範囲の話である。評価軸の設定は難しいが、「お父さんお帰りなさいパーティ&ようこそ！ゆめこらぼミディ（以後、おとぱ＆ミディ）」も継続してやっていることは、説得力のある活動として評価されていくのではないか。

委員長：福祉の定義が広範囲になっているので、盛り込むとすれば、前文のところに市の重点施策であるとかキーワードやテーマになっているなど、事業展開であれば福祉系の団体にも声をかけるなど具体的にはなる。

委　員：記載すると「市民活動への参加やボランティアに参加することが、あなたを健康にします」という文言がよいのではないか。

委員長：良いアイデアの１つだと思う。「おとぱ&ミディ」も一定に定着してきているなかで、どのくらい市民参加に繋がっているか。今後は数字を追いかけるのも、モデルケースとなるのではないか。

3. 協　議　事　項

1. センターの業務の執行に関する事項（重点事業の企画）について

事務局より、平成 29 年度西東京市市民協働推進センター運営委員会委員名簿（案）について説明があった。

事務局より、相談用ツール（案）について説明があった。

委員長：確認だが、相談用ツールはホームページに載せるのか。

事務局：載せる予定である。

委員長：内容について、意見はないか。

委　員：西東京市市民協働推進センターが正式名称でゆめこらぼは通称と考えていたが、ゆめこらぼではなく、併記するか正式名称をいれるものではないか。

事務局：ゆめこらぼを愛称のように使うのが主旨であり、西東京市市民協働推進センターゆめこらぼが正式名称となっている。

委　員：ゆめこらぼ通信の配布場所が一覧になって載っているとよいと思う。「主催している講座などはホームページのどこのページでご確認してください」の記載や「資料についてダウンロードできる」などの記載があれば親切だと思う。機材では「プリンターはない」などの記載も明記して欲しい。

委員長：法人格の違いを掲載してはどうか。企業との協働や CSR、また西東京市の基本方針についても少し触れて欲しいと考える。

委　員：全体的に硬い印象がある。最初に柔らかい印象の入口があれば、親しみがわくのではないか。ゆめこらぼの語源を明記するのも良いのではないか。

委　員：個人が気軽に問い合わせできるような印象のホームページにして欲しい。

委員長：他にアイデアがあれば、ゆめこらぼに伝えて欲しい。

2. 来年度の運営委員会の進め方について

事務局より、来年度の運営委員会での協議・審議予定と進め方（案）について説明があった。

委員長：今後、運営委員会で何を議論していけばよいか。それに対し、運営委員会開催の頻度をどうするかの 2 点を協議することとする。運営委員会で何を議論するべきかについて意見はないか。

委　員：事務局側としては、隔月開催でも問題はないのか。
事務局：基本的には問題ないと考える。
委員長：運営委員会の回数は事業のボリュームにより回数が決まる。運営委員会で議論するべきことに対する意見が欲しい。
委　員：委員会開催の回数を減らした場合、事務局が会議の準備にかかる時間を他の事業に使えるメリットがあることを、議論する上で共有してはどうか。
委員長：運営委員会にかけるマンパワーを、他のことに使えるイメージはあるのか。
事務局：ゆめこらぼ全体としては活かすことは難しいが、個々の仕事に活かせる可能性はあると考える。
委　員：事務局だけでは決めかねることなどに対し、委員の意見が聞きたいなど事務局の希望を聞きたい。運営委員会がすべての事業を把握しているわけではないので、委員会でどのような事を諮りたいのか、事務局の考えを聞くことで方向性につながると思う。
事務局：現在は細かい事務処理作業が多く、他の事業に充分回らない部分がある。
委員長：事務局として運営委員会の知見、経験の意見をどの辺に活かしたいと考えているか。
事務局：一番使いたいのは、運営委員のネットワークとか人脈を個別の事業の中に活かしたいと考えている。
委　員：事務処理は臨時スタッフがやればよいことで、事務処理をすることにより市民活動に理解を深めることが出来ると考える。その分、センター長は外に出るべきだと考える。他のスタッフもできるだけ外に出て、どんな質問にも答えられる様になって欲しい。
委員長：運営委員会のあり方として、毎月委員会を開催する方がよりセンターのミッションを叶えられることにつながるのであればやるべきであると思う。あるいは、委員会の中でよりプライオリティを上げて運営委員会を集中的に議論する場にするのがよいのか。その辺りを事務局側で本質的に運営委員会のあり方を考えた末に、開催回数は半分で良いかどうかを議論する事に繋げることが、よいのではないか。
委　員：運営委員会にかかっている予算を半分に減らすことが可能であれば、運営委員会からの提言として、スタッフにかけられる人件費にまわすことができるのであれば、よりスペックの高い人材を作業に充て、もっとクリエイティブな仕事ができるのではないか、と発言することは重要ではないかと思う。
委員長：そのような担当課との交渉ができるかどうかだ。
委　員：重点課題は一緒に考え、濃密に議論するのがよいのではないか。
委員長：見てわかるような報告事項などは報告なしで特記事項だけの説明で終わりあとは議論に充てる。ワークショップなどの時間の使い方もある。地域に根差して活動をしている方が多い運営委員会なので、事業開発における地域課題に対してきちっと議論することが大事だと考える。解決に導ける事業は何かを議論する集中的な時間の使い方もあるのではないか。
委　員：委員会のようにグループを作って担当制で行うのはどうか。事務局から出てきた案に対し、良いか悪いかを議論するのではなく、案を作る段階から委員会が関われば、委員にとってもやりがいがあるのではないか。
委　員：新しく委員になった人に意見を言ってもらえるような場づくりが必要である。開催回数を減らすことによって当事者意識がなくなり本気で関わってもらえなくなるのではないか。

委　員：会議のほとんどが確認作業になっている。ゆめこらぼの活性化には繋がっていないと思う。確認作業にプラスして、もっと運営委員会の在り方やゆめこらぼの在り方を考える時間にあてることを検討してはどうか。

委員長：事務局から意見はないか。

事務局：予算に関してだが、委託の場合は運営委員会の予算を減らして他へ回すのは難しいと考える。

細かい事業が多いので、まとめることをしなくてはならないと感じている。地域連携促進事業の中のいくつかについて議論していただく方向がよいのではないかと思う。お任せいただける事業は任せていただき、いくつかの事業に関して集約的に議論を頂ければと思う。

委員長：委員会の時間を集約的に使い、事業自体の内容に使うことと根本的な議論に使い、報告などは簡素化するなど工夫はできるのではないか。進め方として社協事務局から提案はあるか。

事務局：運営委員会の開催回数減らす件だが、次年度からの実施は難しいと考える。運営委員の過半数が替わるため、運営委員会の場に集まることで初めて意識が出てくるという事もあるので開催回数を減らすことは定着がしにくいのではないかと危惧している。センター長やスタッフの負担のないやり方は考えていかなければならないと考えているので検討したい。

委員長：いきなり隔月開催にするという意見にはならないだろうと思う。議論するテーマや進め方を変えいく方向になるかと思う。チームに分かれて議論し、たたき台を作る。それを 2 月に提案し 3 月に発表するのはどうか。関わってもよいという人はいるか。

委　員：気持ちはあるが、実際には難しいと思う。集中して議論する場を持つことは、効率的であり、それぞれの力を事業に注ぎ込むことが出来るのではないかと思う。

委員長：委員には適宜メールベースでアイデアを頂くという形で関わってもらいたい。委員会の進め方も含めて、事務局と私で相談し、委員に投げたいと思う。短期的にメーリングリストを活用して提案する方向で進めたいと思う。新しい委員も加わることもあり、この時点で運営委員会も変えることで、ゆめこらぼをより充実させていく良いチャンスではないかと考える。皆さんからのご意見をお願いしたいと思う。

4. そ　の　他

1. 次回運営委員会日程について

日時：2 月 21 日（火）19 時～21 時

会場：イングビル 3 階　第 1, 2 会議室